

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

年 月 日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学政治学研究科法曹養成専攻 1年(2年次)

参加プログラム: IARU UCB2 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 カリフォルニア州立大学バークレー校 同州立大学制度の発端であり、ノーベル賞受賞者を多数輩出していることでも知られる。</p>
<p>参加した動機 アメリカ西海岸の気候と留学全般への興味、及び同大学ロースクールの下見など</p>
<p>参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) TOEFLを事前に、入念に準備すること。推薦書の入手先の確保。 ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 手続きが煩雑かつ厳しいので、何度もチェックする。必要に応じてビザ申請サービスを利用する。 ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 過去に留学経験があり特に行わなかったが、麻疹等の予防接種に注意する。 ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) すでに加入している傷害保険があったため加入しなかったが、2万円前後かかる様子。 ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 法科大学院のため単位は諦めた。留学願いを忘れないこと。 ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL89 TOEIC955 特に事前の準備は行っていない。 ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 持薬。すべてのものは同国内で比較的容易に手に入るため、必須の物はないが、こだわりのあるものは持って行ったほうがよい。健康管理を入念にすること。</p>
<p>学習・研究について ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 社会的抗議運動という社会学と政治学の学際領域および基本的なオンライン発信技術を扱う。リーディング課題及びそれに基づくディスカッションと、授業内容に関わるウェブページ作成等の課題が課される。 ② 学習・研究面でのアドバイス 特にないが、新規領域ということもあり書籍が少ない。世界史(近代史)は一通りさらっておいたほうがよい。 ③ 語学面での苦勞・アドバイス等 会話に苦勞するが、時間をかけて慣れればよい。IARU のプログラムは、他の参加者も似たような背景をもつ者が多く、なじみやすい。</p>
<p>生活について ① 泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) International House という寮に滞在する。60 回分の食事がついて、40 日で 3000 ドル(シングル。ダブルは 2500 ドル。ほかに敷金が 500 ドルかかる)。IARU の場合は、容易に入居できる模様。伝統的な寮で、きれいに使われており、雰囲気もよいが、扉は薄く、廊下やエレベータ・シャワールームの音は聞こえる。 ② 活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 常に 25 度前後だが、朝は 15 度程度まで下がる。ヒッピーやホームレスは多いが、治安も比較的よく、複数人であれば夜間でも外出できないことはない。また街もコンパクトで、大学周辺はバスも多いため、足に困ることもない。ただ、タクシーはほとんど走っていない。地下鉄などにより容易にサンフランシスコまで行くことができる。基本的にはクレジットカードを利用する。学生街なので、比較的安く外食することができる。 ③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 医療関係は利用していないが、日本よりも強い薬を処方箋なく購入できる(ID は必要)。体調を崩したが、その間は寮でよく休んでいた。日本の友人や家族・恋人との連絡をよく行った。 ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 授業料は 3000 ドル、教科書代は 60 ドル。交通費は、期間中バスを無料で利用できる。その他の概算は不明。 ⑤ 学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) FOTI: 3500 ドル 東京大学: 80000 円 いずれも、留学申請時に知ることができる。 ⑥ 習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)</p>

ジムが格安で利用できる。週末はショッピングに行ったり、友人と短い旅行に出かけたりすることができる(サンフランシスコはもちろん、ロサンゼルスやサンタクルーズ、ヨセミテ国立公園等)。

派遣先大学の環境について

① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

寮は近隣に住む学生とのトラブルが発生した際、適切な対応をとる環境が整っている。

② 学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館が多く、一部は休日でも深夜まで利用できる。食堂は多国籍だが、味は微妙。PCは寮でも図書館でも利用できる。基本的に施設内であればWi-Fiが利用できる。

プログラムを振り返って

① ログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

いままで短期の留学程度、と思っていたが、思ったよりも苦勞することが多く、また実質的に初めて親元ないし地元を離れて暮らしたこともあり、一人で生活することの所在なさを実感することが出来た。

当初は学問分野に関してあまり関心を払っていなかったが、プログラムを通じて研究の対象とする価値がある分野であることに気付くことも出来た。

② 加後の予定

特になし。英語の学習を継続する。

③ 後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

時間があるのであれば、確実に行く意味があると思います。

その他

① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。基本的に本部国際交流課のホームページで足りる。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。